

## 令和2年度 第2回 岡山県事業評価監視委員会 議事要旨

### ○開催概要

- 1 日 時 令和2年10月12日（月）13:30～16:00
- 2 場 所 メルパルク岡山「芙蓉」
- 3 出席者 岡山県事業評価監視委員会 委員 7名  
 土木部 技術総括監  
 農林水産部 参与（農林技術）  
 事務局（技術管理課、農政企画課）  
 道路建設課、道路整備課、防災砂防課、港湾課、都市計画課  
 耕地課、農村振興課、水産課

### ○議事概要

- 1 開 会
- 2 挨拶（土木部 技術総括監）
- 3 再 評 価

（事務局）	<p>再評価審議対象事業          （第1回事業評価監視委員会で4件を抽出）          （土木部関係4件）</p> <p>「再評価後5年間を経過した時点で継続中の事業」</p> <p>② 県道 水島港唐船線 道路改良事業          ④ 国際拠点港湾 水島港 浚渫土処理護岸建設事業          ⑤ 児島湖処理区 児島湖流域下水道事業</p> <p>「知事が特に必要があると認める事業」</p> <p>⑦ 地域高規格道路 美作岡山道路 道路改良事業</p>
（道路建設課）	<p>② 県道 水島港唐船線 道路改良事業</p> <p>・本路線は、水島港を起点とし、倉敷市玉島阿賀崎の国道2号唐船交差点に至る幹線道路であるが、唐船交差点からは、国道2号のバイパス「玉島・笠岡道路」の笠岡方面に乗り入れることができないため、水島港と井笠圏域及び福山地域を結ぶ物流ネットワークとして課題がある。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国が整備を進めている「玉島・笠岡道路」と「笠岡バイパス」の沿線では、アクセス性の向上が期待され、工業団地の分譲件数が急増するなど、大きな効果が表れており、物流ネットワークの更なる強化が期待されている。</li> <li>・本事業は、水島地域と井笠圏域及び福山地域との物流ネットワークの形成、国道2号唐船交差点など周辺道路の交通混雑の軽減を目的として、水島港唐船線の勇崎交差点から「玉島・笠岡道路」に接続するバイパスを整備するものである。</li> <li>・事業着手後に猛禽類調査及び環境影響評価を実施しており、事業進捗率は低くなっているが、現在、環境影響評価の評価書縦覧を終えたところであり、今後、速やかに道路詳細設計等に着手する予定としている。</li> <li>・今回の再評価では、事業期間、事業費、工事概要に変更はないが、計画交通量については、最新の交通量推計に基づき見直しを行ったことにより、13,100台から11,000台となり2,100台の減となっている。</li> <li>・B/Cは、前回再評価時は3.42、今回の再評価では2.01となっている。</li> <li>・本路線は、「玉島・笠岡道路」及び「笠岡バイパス」と一体となって物流ネットワークを形成するものであり、交通混雑の軽減等、事業の必要性、重要性は変わらないことから、現計画を継続する方針である。</li> </ul> <p>(質疑応答)</p> <p>( 委 員 ) 事業費は当初と変わらないのか。</p> <p>(道路建設課) 変更していない。</p> <p>( 委 員 ) 便益はどうか。</p> <p>(道路建設課) 交通量推計の見直しにより計画交通量が1万3,100台から1万1,000台に減少したため、便益は減少している。</p>
--	--

( 委 員 )	それによって費用便益比は若干変化したということか。
(道路建設課)	そうである。
( 委 員 )	費用が全く変化しておらず、便益もあまり大きく変化していないのに再評価するのは、前回から5年経過したからということか。
(道路建設課)	前回再評価から5年経過して継続中の事業であるため、再評価を実施している。
( 委 員 )	そのルールの利用について、私個人として思うところだが、結局、再評価するとなると、結構な作業を行政としてやる必要が生じており、その時間コストを考えたときに、こういう事例を再評価でわざわざ上げてきてすること自体が、費用対効果から考えてあまり意味を持たないんじゃないかという気がしないでもない。その辺も含めて、検討してみてもうか。
( 委 員 )	走行時間短縮便益、走行経費減少便益、交通事故減少便益は、それぞれ前回より減少しているが、走行経費減少便益と交通事故減少便益の減少割合が大きい理由は何か。
(道路建設課)	便益は、国が定めた費用便益分析マニュアルに基づき算定している。前回、平成27年度の評価は、平成20年に策定されたマニュアルを適用したが、今回の再評価では、平成30年のマニュアルを適用している。20年のマニュアルと30年のマニュアルを比較すると、便益を算出するための係数が概ね低下しているが、その低下の度合いがそれぞれの便益で異なっているため、走行経費減少便益と交通事故減少便益の減少割合が大きくなっている。
( 委 員 )	今回、この事業が審議対象に選ばれた理由は、進捗率の低さだと思うが、完了年度について、延長を検討しているのか、それとも計画どおりできそうなのか、そのあたりを教えてほしい。

<p>(道路建設課)</p>	<p>本路線は、玉島笠岡道路のアクセス道路として、重要であり、県としても優先的に事業を進めていく方針である。</p> <p>このたび、環境アセスも終わり、今後、計画的に事業推進できる見通しがついたことから、優先的に事業費を投資し、計画どおりに事業を進めていけると考えている。</p>
<p>(港湾課)</p>	<p>④ 国際拠点港湾 水島港 浚渫土処理護岸建設事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は、水島港における国直轄事業や県の港湾整備事業及び航路・泊地の維持浚渫で発生する土砂の海面処分場として整備している。</li> <li>・浚渫土の受入を円滑に進めるために浚渫土処理護岸の受入容量の増加に対応する対策を行う必要がある（減量化工事）。</li> <li>・前回評価から計画完了年度は令和2年度から令和7年度へ5年延伸しており、事業費は105億円から127億円となり22億円の増額となっている。工事概要については「築堤工」が追加となっている。</li> <li>・B/Cについては、5.98であり、事業の必要性、重要性に変わりはなく、事業を継続する方針である。</li> </ul> <p>(質疑応答)</p>
<p>(委員)</p>	<p>当初の計画から変えざるを得なかったのは、軟弱地盤で沈下するということを見抜けなかったためか。</p>
<p>(港湾課)</p>	<p>海底地盤より下は、当初からボーリングしているため現状は分かっていたが、搬入する浚渫土の土質は想定でしかなかったため、実際に満杯になったところで調査をした結果、想定よりも沈下が少なかったということである。</p>
<p>(委員)</p>	<p>大きな船で運んできて、新設の岸壁のほうにも積み替えてという輸送の形は、当初から考えていたものなのか、それとも、この軟弱地盤の問題が出てきてから考えたシステムなのか。</p>

( 港 湾 課 )	元々計画されていたものである。
( 委 員 )	埋立後の土地利用について、ヘドロみたいな軟らかい土を入れるので、それが沈下しないようにどんな工法を使ったらいいとか、相当なコストをかけて埋め立てるので、それに対する費用対効果がプラスになるような利用の仕方はどうするのかといったことを真剣に考えないといけないと思うが、この土地の利用計画はどこでやるのか。
( 港 湾 課 )	港湾課で利用計画を立てている。 また軟弱地盤については、工業用地として企業に売却する際に情報提供し、企業の方で対策を取ることになる。
( 委 員 )	もしそういう形になるのであれば、土質とかの正確な情報を企業にきちんと伝えるようにしてほしい。
( 港 湾 課 )	承知した。
( 委 員 )	浚渫土処理に係る事業はこれよりも先にまた計画はあるのか。今後の計画の予定を立てておかないと、今回の計画の見直しで十分なのかっていう思いがある。将来のことを考えたときに、果たしてこの事業をこのまま続けたほうが有効なのかどうかっていう議論もあるので、そのあたりを教えてほしい。
( 港 湾 課 )	今後も国の航路浚渫の計画や、県の維持浚渫もあるので、埋立については今、新規に発生する土砂の受入方法を検討中である。また新たな浚渫土処理護岸の候補地を探していくという流れになると思う。
( 都 市 計 画 課 )	⑤ 児島湖処理区 児島湖流域下水道事業 ・流域下水道事業は、複数の市町から広域的に下水を集め、効率的に処理する事を目的としており、岡山県が、最終処理場と主要幹線管きよ整備を担当し、関連市町である岡山市、倉敷市、玉野市、早島町が、各市町の管きよ整備を担当して

	<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岡山県が担当する主要管きょ整備は既に完了し、残事業は最終処理場の増設工事である。</li> <li>・下水道整備率は82%であり全国平均の80%と比較しても遅れていない。</li> <li>・人口減少の時代にあって、本事業の計画区域内人口は、人口集中などの影響により、増加傾向が継続している。</li> <li>・本事業の計画区域内人口の増加傾向から、将来の計画流入下水量が増加し、最終処理場の下水処理能力を33万6千m<sup>3</sup>/日から37万3千m<sup>3</sup>/日と変更した。</li> <li>・総事業費は1,370億円から13億円増えて、1,383億円となった。</li> <li>・B/Cは1.7となっており、事業の必要性、重要性は変わらないことから、現計画を継続する方針である。</li> <li>・本事業は継続するが、平成27年度からは既存施設の改築更新工事を行っており、処理能力の増設といったさらなる投資を行っていない。これは、流入する汚水量の伸びが鈍化し、当面の間は処理能力の増設が不用との予測に基づくものである。</li> <li>・当委員会に対して、本来のさらなる投資の妥当性をお諮り出来ない状態が、当面の間継続することが予測されることから、事業再評価を一旦休止し、今後、処理能力の増設が確実となったタイミングで改めて当委員会にお諮りしたい。</li> </ul> <p>(質疑応答)</p> <p>( 委 員 )      岡山市は人口が増えているが、合併により周りの人口減少の市町村を受け入れている。そこまで広げた中で下水事業を行うと大赤字になると思うが、そういう地区は、除いて計画しているのか。</p> <p>(都市計画課)      市町村合併で入った部分は、計画区域に含まれてない。</p> <p>( 委 員 )      倉敷市も同じ考え方でいいか。</p> <p>(都市計画課)      倉敷市も基本的に密集地域を中心として計画区域を中心に計画している。</p>
--	---

<p>( 委 員 )</p>	<p>県の行政として考えれば、人口集密なところについては、従来方式の下水で進めるというのはいいと思うが、そのやり方ではコスト採算に合わないエリアについて、どういう計画ビジョンを持っているのか。</p>
<p>(都市計画課)</p>	<p>クリーンライフ100構想において、人家のまばらな地域は、積極的に合併処理浄化槽による処理を考えており、これについても定期的に見直しを行いながら進めている。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>人口が少ない農村地域では、農林水産省が農村集落排水を行っている。県も、他省庁の取り組みとリンクしながら、効率的な下水処理を考えていくという方針でいいか。</p>
<p>(都市計画課)</p>	<p>都道府県構想に関しては、農林部局や、合併処理浄化槽を所管する環境部局と連携を取りながら進めている。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>岡山市も倉敷市も、独自の人口推計を行っている。これはベースが住民基本台帳か国勢調査かで、全然人口が異なる。こういう下水の問題を考える場合には、そこに何人生活しているかという実人口が非常に重要になると思う。平成17年以降、増設をしていないのは、住民台帳ではなく国勢調査に基づいていて、岡山市や倉敷市で生活している人があまり変化してないとも理解できるが、各市がどちらに基づいて推計しているのか。</p>
<p>(都市計画課)</p>	<p>基本的には、開発計画等も見込んだ具体的な独自の調査によって推計している。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>この事業を当初計画するときの人口値は、推計値を使ったり、市の独自集計値を使ったりという同じやり方をしていることか。</p>
<p>(都市計画課)</p>	<p>社人研の推計値が出てきたのは、人口減少が問題になってきてからだと思うが、その頃からは、それと整合を確認しな</p>

	<p>がら独自集計した数字である。</p>
( 委 員 )	<p>平成17年から何もしていない状態が続いていると思うが、何か費用は発生しているのか。</p>
(都市計画課)	<p>耐用年数が過ぎた機械設備の改築更新や同施設の耐震化といったメンテナンスを平成27年度以降継続して行っている。</p>
( 委 員 )	<p>令和17年度まで維持管理するための費用はかかるが、増設するような大規模な工事はしないのであればということで、事業として一旦廃止するというのは現実的ではないのか。</p>
(都市計画課)	<p>現実問題として、県が一旦ここでやめるという話になると、処理場の処理能力がここで上限ということになる。そうになると、市町は今区域を広げているが、そこまで広げても、もう処理ができないということになってしまう。市町が計画どおり下水道の区域を広げても、人口減少や節水化により予想よりも実際の汚水量が増えていないという現状である。実際に接続する人口で予測すると、こういった計画になるが、県独自の判断で処理能力はここで上限ということを決めることは、この事業に関しては難しい。</p>
( 委 員 )	<p>ということは、令和17年度に今のところ増設する予定があつて、それ以降も事業として継続する可能性が高いということか。</p>
(都市計画課)	<p>今はまだ現有の処理能力に対して計画処理能力のほうが上であり、増設の可能性はある。ただし、事業計画自体も見直すときに、計画処理能力が落ちてくるかもしれない、どこかの段階では現有処理能力を計画処理能力が下回ることになると思う。しかし、今、想定以上に人口集中が進んでおり、計画処理能力が増える可能性もあるため、現時点で増設の可能性がないと断定することは難しい。</p>

<p>( 委 員 )</p>	<p>現状のキャパシティーのまましばらく様子を見ようという提案である。そうすると、再評価は5年ごとにやっているが、何もやってない状況でまた5年後、再評価するというのもどうかと思うので、5年ごとの再評価を休止にしておいて、処理能力を上げなければならない問題が出たときに、この委員会で提案してもらい、皆様のご意見をいただくという形かどうか。</p> <p>仮に再評価を5年ごとにしないとしても、人口減少が進む中で、どのような下水処理をやっていったらいいかということは、休むことなく研究、考えていかなければならないと思う。</p> <p>特にご意見等なければ、5年ごとの再評価は行わず、大きな変換があり、下水関係の何か提案あるいは行動を起こすときに、この委員会に意見、計画を出してもらい、評価検討するという形にしていかが。</p>
<p>(道路建設課)</p>	<p>⑦ 地域高規格道路 美作岡山道路 道路改良事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美作岡山道路は、既存の高速道路と一体となって、美作圏域と岡山圏域との交流促進、企業誘致、観光誘客などに重要な役割を果たす全線36キロの地域高規格道路で、これまでに全線の約6割を供用した。</li> <li>・今回の再評価は、来年度の補助事業化を予定している吉井IC～英田IC間の国の事業評価に当たり、第三者機関の意見を求められていることから行うものである。</li> <li>・事業費は、1,180億円から164億円増額し、1,344億円とし、柵原IC設置予定地付近における地元合意形成に時間を要していることから、計画完了年度を令和8年から4年延長している。</li> <li>・事業費増加の主な理由は、柵原インター設置予定地付近の盛土構造による地域分断への影響を踏まえ、一部を高架構造に変更したことによるものである。</li> <li>・柵原IC設置予定地付近では、ルート決定経緯への不満や内水による浸水被害拡大のおそれなどから、反対運動が起こったが、説明会等を通じて話し合いを継続し、平成29年</li> </ul>

	<p>度の8割を超える測量への立入同意や、地元美咲町からの事業促進の要望を踏まえて事業を進めており、今年開催した説明会では、落ち着いた雰囲気、前向きな話し合いができるなど事業実施に向けた環境が整ってきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本区間の整備により、全線開通すれば、物流の効率化による企業立地や、大規模災害時の迅速な救援活動が可能となるなど大きな効果が期待される。</li> <li>・便益算出に当たっては、IC間で順次供用していくため、区間ごとに供用後50年を見込み、全線の費用対効果は、1.3となり、整備効果は十分に確認される。</li> <li>・来年度に補助事業着手予定の吉井IC～英田IC間の事業費は、475億円、事業期間は、令和3～12年度、費用対効果は1.4となっている。</li> <li>・以上のことから、引き続き、現計画を継続する方針であり、早期の全線開通に向け、事業を推進する。</li> </ul> <p>(質疑応答)</p> <p>( 委 員 ) 柵原インターチェンジ予定地での説明会に参加する住民は、実際どの程度の数で、こういったご職業の方々なのか。</p> <p>(道路建設課) 50名程度であるが、ご職業までは把握していない。</p> <p>( 委 員 ) 高架にした場合、どの程度費用が増えるのか、</p> <p>(道路建設課) 約50億円ほど増加すると見込んでいる。</p> <p>( 委 員 ) これだけの高速道路が開通することによって、沿線の地方自治体は企業誘致をどのように考えてるのか、また沿線の企業等はどのように営業や企業戦略を考えているのかとか、山陽自動車道ともつながることによって、県北の企業にとっては新たなビジネス戦略を立て得るし、期待もしているだろうと思うが、数値にはならない定性的な情報であっても、この道路が開通することによる効果を少し説明してもらえると、もっと全体的にこの高速道路ができることのメリットがイメージしやすくなると思うので、今後そういう情報も入れてほしい。</p>
--	--

<p>( 委 員 )</p>	<p>内水被害の説明があったが、この道路整備と内水被害の関係について教えてほしい。</p>
<p>(道路建設課)</p>	<p>柵原インター設置予定地付近の田んぼに平成30年7月豪雨の際、内水がたまったという状況があり、ここに盛土ができるので、住民の方々が心配されている。内水対策については美咲町が計画しているが、県も道路整備に併せて一緒に対策を検討していきたいと考えている。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>高架化するのとは北側のところだけで、今の田んぼのところは盛土のままであるから、内水の話が出てくるということか。これに対するポンプ場設置などは別に計画しているということか。</p>
<p>(道路建設課)</p>	<p>そのとおりである。</p>

## 5 事後評価

<p>(事務局)</p>	<p>事後評価対象事業について、事務局より概要説明し、その中から、次回事業評価監視委員会において審議する事業を抽出</p> <p>令和2年度 事後評価対象事業の概要説明 (土木部関係 10 件)</p> <p>道路改良事業</p> <p>①県道 柳井原上二万線 倉敷市船穂町柳井原～真備町上二万 工種：現道拡幅＋バイパス 概要：延長 1,300m 幅員 6.0 (9.75～14.0) m 事業期間：2年延長 (平成13～27年度) 事業費：0.6億円増額 (全体事業費 7.4億円)</p> <p>交通安全事業</p> <p>②県道 作東大原線 美作市五名～沢田 工種：歩道 概要：延長 L=720m 歩道幅員 W=2.0m 事業期間：2年延長 (平成21～27年度) 事業費：0.5億円増額 (全体事業費 2.7億円)</p> <p>③県道 山田槌ヶ原線 玉野市槌ヶ原 工種：歩道 概要：延長 L=560m 歩道幅員 W=2.0m 事業期間：2年延長 (平成23～29年度) 事業費：0.1億円増額 (全体事業費 2.2億円)</p>
--------------	---

④県道 倉敷清音線

倉敷市青江

工種：自歩道

概要：延長 L=120m 自歩道幅員 W=3.0m

事業期間：2年延長（平成24～28年度）

事業費：0.5億円減額（全体事業費3.0億円）

砂防事業

⑤砂防指定地 あわら川

津山市加茂町成安

工種：砂防堰堤

概要：1基

事業期間：4年延長（平成21～30年度）

事業費：0.7億円増額（全体事業費4.8億円）

⑥砂防指定地 惣静川

真庭市惣

工種：砂防堰堤

概要：1基

事業期間：5年延長（平成21～30年度）

事業費：0.2億円増額（全体事業費2.6億円）

⑦砂防指定地 サクノコ谷川

美作市和田

工種：溪流保全工

概要：延長 L=320m

事業期間：1年短縮（平成28～30年度）

事業費：0.1億円増額（全体事業費1.9億円）

港湾改修事業

⑧国際拠点港湾 水島港 玉島地区乙島 4号泊地

倉敷市玉島乙島

工種：泊地浚渫

概要：V=70,000m<sup>3</sup>

事業期間：変更なし（平成 28 年度）

事業費：0.2 億円増額（全体事業費 3.1 億円）

⑨国際拠点港湾 水島港 玉島地区玉島西航路

倉敷市玉島乙島

工種：航路拡幅、泊地浚渫

概要：航路延長 L=3,020m、泊地浚渫 V=180,000m<sup>3</sup>

事業期間：変更なし（平成 21～29 年度）

事業費：1 億円増額（全体事業費 22 億円）

高潮対策事業

⑩水島港海岸 南浦地区、南畝地区

倉敷市玉島黒崎～南畝一丁目地内

工種：護岸(改良)、胸壁

概要：護岸延長 L=962.0m、胸壁延長 L=800.0m

事業期間：1 年延長（昭和 61～平成 29 年度）

事業費：0.8 億円増額（全体事業費 24.3 億円）

（農林水産部関係 17 件）

経営体育成基盤整備事業

⑪奥吉原地区

赤磐市奥吉原

工種：区画整理

概要：23.8ha

事業期間：変更なし（平成22～27年度）

事業費：0.2億円増額（全体事業費5.1億円）

⑫里山田上地区

小田郡矢掛町里山田

工種：管水路、暗渠

概要：管水路延長L=7.1km、暗渠2.3ha

事業期間：変更なし（平成24～27年度）

事業費：0.4億円増額（全体事業費2.7億円）

県営かんがい排水事業

⑬藤田都大曲地区

岡山市南区藤田

工種：管水路、管理棟、水管理施設

概要：管水路延長L=69.5km

事業期間：変更なし（平成9～27年度）

事業費：2.0億円増額（全体事業費71.6億円）

⑭妹尾川地区

岡山市南区藤田～中畦

工種：排水路

概要：延長L=5.6km

事業期間：1年延長（平成6～27年度）

事業費：3.1億円増額（全体事業費61.5億円）

防災事業（地震対策）

⑮福谷小原池地区

瀬戸内市邑久町福谷

	<p>工種：ため池改修  概要：1箇所  事業期間：変更なし（平成24～27年度）  事業費：1億円減額（全体事業費1.5億円）</p> <p>防災事業（ため池）</p> <p>⑩大池地区  岡山市北区三和  工種：ため池改修  概要：1箇所  事業期間：変更なし（平成24～27年度）  事業費：0.3億円増額（全体事業費2.2億円）</p> <p>⑪宗形池地区  岡山市北区大窪  工種：ため池改修  概要：1箇所  事業期間：変更なし（平成24～27年度）  事業費：0.3億円減額（全体事業費1.4億円）</p> <p>⑫片岡新池地区  岡山市南区片岡  工種：ため池改修  概要：1箇所  事業期間：変更なし（平成24～27年度）  事業費：0.7億円増額（全体事業費2.5億円）</p> <p>⑬前池地区  玉野市八浜町波知  工種：ため池改修</p>
--	--

	<p>概要：1箇所  事業期間：変更なし（平成24～27年度）  事業費：0.3億円減額（全体事業費1.2億円）</p> <p>⑳坂根池地区  倉敷市真備町尾崎  工種：ため池改修  概要：1箇所  事業期間：変更なし（平成24～27年度）  事業費：0.3億円増額（全体事業費1.5億円）</p> <p>㉑登尾池地区  和気郡和気町宇生  工種：ため池改修  概要：1箇所  事業期間：1年短縮（平成25～27年度）  事業費：0.3億円増額（全体事業費1.9億円）</p> <p>防災事業（用排水施設）</p> <p>㉒高分木地区  岡山市中区桑野  工種：樋門改修  概要：1箇所  事業期間：変更なし（平成25～27年度）  事業費：0.1億円減額（全体事業費1.5億円）</p> <p>防災事業（河川応急）</p> <p>㉓東高崎地区  玉野市東高崎</p>
--	--

工種：堰改修

概要：1箇所

事業期間：変更なし（平成24～27年度）

事業費：1.2億円増額（全体事業費3.3億円）

海岸保全施設整備事業（高潮対策）

②④児島三五区3期地区

岡山市南区浦安西町

工種：根固工

概要：延長 L=1,109m

事業期間：1年短縮（平成24～27年度）

事業費：0.9億円減額（全体事業費3.6億円）

地すべり対策事業

②⑤奈義地区

勝田郡奈義町滝本

工種：地すべり防止施設

概要：9箇所

事業期間：変更なし（平成23～27年度）

事業費：0.5億円減額（全体事業費1.1億円）

地域水産物供給基盤整備事業

②⑥邑久地区

瀬戸内市邑久町長島

工種：海水路拡張・掘削

概要：延長 L=600m

事業期間：7年延長（平成18～27年度）

事業費：0.6億円減額（全体事業費5.4億円）

<p>(事務局)</p>	<p>海岸保全施設整備事業（高潮対策）</p> <p>⑳沙美漁港海岸 倉敷市玉島黒崎 工種：胸壁、護岸、陸閘 概要：胸壁延長 L= 573m、護岸延長 L= 523m、陸閘 N=9 基 事業期間：変更なし（平成 23～27 年度） 事業費：0.4 億円減額（全体事業費 2.1 億円）</p> <p>事務局からの概要説明を踏まえ、令和 2 年度事後評価対象事業 27 件から、「事業種別ごと」に事業費、事業期間など変動の大きな事業を対象に、事後評価審議案件 6 件を抽出した。</p> <p>○土木部関係（2 件） 道路改良事業 ① 県道 柳井原上二万線 砂防事業 ⑤ 砂防指定地 あわら川</p> <p>○農林水産部関係（4 件） 経営体育成基盤整備事業 ⑫ 里山田上地区 防災事業（ため池） ㉑ 登尾池地区 海岸保全施設整備事業 ㉒ 児島三五区 3 期地区 地域水産物供給基盤整備事業 ㉓ 邑久地区</p>
--------------	---

## 7 閉会